

令和5年度 第2回小牧市文化財保護審議会会議録

日 時：令和5年10月27日（金）午前10時

場 所：小牧市役所 東庁舎4階 本会議用控室

出席者：〔委 員〕池田委員、小野委員、藤堂委員、中嶋委員、越川委員、村松委員
西川委員、富嶋委員

〔事務局〕中川教育長、伊藤教育部長、矢本教育部次長、武市文化財課長
長谷川文化財課長補佐兼文化財係長、坪井主査

傍聴者：なし

【事務局（長谷川）】

定刻となりましたので、ただいまより令和5年度第2回小牧市文化財保護審議会を開催いたします。

皆様におかれましては、本日は、大変お忙しい中御参加いただきましてありがとうございます御ざいます。

会議を始める前に御報告いたします。

本日、増田委員より欠席の御連絡をいただいております。また、池田委員におきましては遅れて来られることとなります。

また、議題となります（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想の策定業務を受託いたしました株式会社トータルメディア開発研究所より吉原氏も同席しておりますので、よろしくお願いたします。

この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき会議を公開しております。本日、傍聴者はございません。

議事は音声録音し、議事録は、発言内容、お名前とも小牧市のホームページにて公開しますので、御承知おきください。

次に、会議資料の確認をいたします。

まず、次第が1枚、そして、あらかじめお送りさせていただきましたが、議題資料の差替え分を本日机上に置かせていただいておりますので、御確認ください。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

1 教育長挨拶

【事務局（長谷川）】

次第1として、教育長の中川から御挨拶申し上げます。

【教育長（中川）】

おはようございます。

本日は、お忙しい中、小牧市文化財保護審議会に御出席を賜り、また、日頃から本市の文化財保護行政に御支援、御協力、御示唆を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、7月に開催いたしました第1回の文化財保護審議会の冒頭の挨拶でも申し上げましたが、8月に放映されたNHKの大河ドラマ「どうする家康」では、2回にわたりまして小牧・長久手の戦い、特に小牧山城の土塁や堀の築造の状況について詳しく放映されたところであり、また、関連して、多くのテレビ番組や雑誌等で小牧山城を取り上げていただいたことにより、小牧山山頂にあります小牧山歴史館や小牧山の麓にあります「れきしるこまき」へ多くの方にお越しをいただいております。

また、先ほど別添資料で、富嶋委員から学校の中で実践していただいた、子どもたちへの実践内容についての資料もお見せいただいたところであります。この後また、御紹介いただけるかと思いますが、子どもたちも小牧山に対しての認識をかなり深めてくれているものと拝察する次第でございます。

さて、本日の議題は、（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想についてであります。

昨年度行いました歴史館の全館リニューアルに伴いまして、新たに設置する施設のコンセプトやターゲット、基本方針等につきまして、素案を基にしまして、いろいろな角度から御意見をいただければと思っております。

限られた時間ではございますが、慎重に御審議いただき、また、皆様より忌憚のない御意見がいただければ幸いです。

この後、どうぞよろしく願いいたします。

2 会長挨拶

【事務局（長谷川）】

続きまして、次第2、小野会長より御挨拶をいただきます。

【小野会長】

皆さん、おはようございます。

やっと何か秋らしくなってきたというところですが、私、今月上旬にたまたま
というか、発表で韓国の扶余（プヨ）というところに行っていたんですけども、
百済の都です。扶余の町では、毎年この季節に文化祭りというのを市を挙げてやっ
ていまして、ちょうどそのときに行って、どこへ行っても華やかなところだったん
ですね。

また先週、たまたま所用で東京国立博物館に行っていたんですけども、上野公
園で総合文化祭というのをやっています、今行く先々で文化祭に触れているとい
うところです。明日からは奈良で正倉院展が始まりますし、ちょうど文化に触れる
いい季節になってきました。

本日も、現地調査の話も出てまいりまして、小牧の文化財も新たに発掘して文化
に親しむようなことにつながればいいなと期待しております。

本日は、どうぞよろしくお願いいいたします。

【事務局（長谷川）】

教育長におかれましては、他の公務のため退席させていただきます。

【教育長（中川）】

この後、よろしくお願いたします。

【事務局（長谷川）】

それでは、議事に移ります。

ここからの進行は、小野会長に願いたします。よろしくお願いたします。

3 議題

【小野会長】

それでは、次第の3、議題に入ります。

議題（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想について、事務局の説明を求めます。

【事務局（武市）】

私より、「（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想案」、今日差替えて机上に置
かせていただきました資料を基に説明させていただきます。着座にて失礼いたしま
す。

資料に沿って説明させていただきたいと思います。

1 ページをお開きいただきたいと思います。

まず、基本情報の整理でございます。

今回の施設の設置の目的でございます。

小牧市では、令和4年度に小牧山山頂の小牧山歴史館の展示内容を、これまでの歴史民俗資料を紹介する展示から、戦国時代の小牧山にまつわる展示へと改装を行いました。これに伴いまして、市内の原始・古代から近現代までの歴史や文化財を紹介するための展示施設を新たに整備し、小牧市の歴史を市民に伝えていくことが急務となっております。

(仮称) 歴史民俗資料展示施設は郷土の歴史民俗資料を展示・活用し、市民交流の場、学びの場として、郷土愛、シビックプライドを育んでいくことを目的として設置をしたいと考えております。

次に、候補地の概要でございます。

この施設を設置する候補地ですが、住所としましては小牧市小牧三丁目555番地、ラピオという総合複合ビルの4階になります。また後ほどラピオの概要について説明させていただきたいと思います。

こちらの現市民ギャラリーがある場所が200平方メートルございまして、旧の歴史館の2階とほぼ同じような面積ということで、こちらを改装していく予定をしております。

施設全体の管理者は、小牧市都市開発株式会社ということになります。

次のページ、2ページをお願いいたします。

基本情報の整理ということで、周辺環境となります。

候補場所であるラピオにつきましては、小牧駅の西側で徒歩5分、市内巡回バスのバス停も建物近くにございまして、交通の便が非常に良い場所となっております。また、中央図書館と隣接しておりまして、このラピオのビルの中にも、えほん図書館、こども未来館、スポーツ施設、市民活動センター、1階には飲食店や商業施設等もありまして、多世代の方々が集まっております。また、関連施設となります小牧山歴史館、れきしるこまきへは、巡回バスで4停留所程度の好立地となっております。

3ページをお願いいたします。

ラピオの概要でございます。

地下1階・2階が市営駐車場で、415台の収容となっております。1階から5階までの5階建てとなっております。

1階が食品のフロアということで、2階以上は商業や公共施設とかが入っている

施設となります。

2階、3階、4階に共通してこまき多世代交流プラザということで、多世代が集まるような、子どもを中心とした施設で、2階は大型児童館、3階には体験ひろば、そして4階には同じく「ニコニコひろば」ですとか、えほん図書館、設置を予定しております市民ギャラリーなどの学習施設がございます。

5階には「まなび創造館」ということで、女性センターや講座等を行っておりますあさひホール、スポーツ広場、トレーニングジムなどがございます。

ラピオの4階は子どもを対象とする施設が多く、えほん図書館など連携を組みやすい施設があるため、(仮称)歴史民俗資料展示施設の設置によりまして、多くの子どもたちに小牧市の歴史を知ってもらう機会を提供できるとともに、4階全体としてのさらなる活性化が期待できると考えております。

また、4階につきましては、1ページに4階の床面の図が載っているんですけども、薄くオレンジ色で着色してある部分が市民ギャラリーの場所で、エスカレーターを挟みまして西側にはえほん図書館、北側には子どものための施設などが配置されております。また、そのすぐ北側には学習室、多目的室などの貸しスペースなどもありますので、こういったところも活用しながら、定期的に展示を拡大することも可能かと考えております。

ですので、200㎡ということではございますが、こちらに展示し切れない多くの貴重な資料や、発掘調査の最新情報などを企画展という形で公開できると考えております。

4ページをお願いいたします。

次に、施設のコンセプトということで、まず、こちらの(仮称)歴史民俗資料展示施設の市の中での位置付けの確認をさせていただきたいと思っております。

まず、小牧市の最上位計画といたしまして小牧市まちづくり推進計画というものがございます。こちらでは、分野別計画4、文化・スポーツの中で市が目指す都市ヴィジョンの達成に向けて、小牧固有の歴史・文化遺産を保護・保存・活用していきますという大きな目標がございます。

また、2)といたしまして小牧市教育大綱ということで、都市ヴィジョンの実現のために、小牧市教育大綱においては、「郷土の歴史を礎に、市民とともに愛と夢、生きる力を育む」を基本理念に、8つの基本方針を掲げておる中で、基本目標8、郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承の主な取組の中の34、歴史・文化財・生活文化についての啓発・活用ですとか、施策36、地域資源を生かしたふるさと学習の推進などを目指していけると考えております。

5 ページをお願いいたします。

また、整合、連携を図る計画といたしまして、こちらが市の中心市街地の立地になっておりますので、中心市街地グランドデザインという計画の中の、訪れたい街、こども未来館や中央図書館等の魅力を活かしたにぎわいの形成ですとか、歴史・文化資源の活用、歩いて楽しい歩道ネットワークの構築といったところと、その一施設としての役割を担える場所ではないかと考えております。

6 ページをお願いいたします。

こういった施設の状況ですとか上位計画等も踏まえまして、こちらの施設コンセプトにつきましては、ターゲットを定めてみました。メインターゲットについては子ども、サブターゲットとしましては若い親世代と祖父母世代ということで、こちらのこども未来館に御来場される方について、こちらで学んでいただけるのではないかと、こういったターゲットとしております。

施設の目的を、市民憩いの場ですとか学びの場として、郷土愛、シビックプライドを育むという目的を達成するには、まずはこれからの小牧市の未来を担う子どもたちに小牧の歴史と文化に触れていただく。また、自分たちの足元、地元とか生活圏にある脈々と続く人の営みに気づき郷土愛が育まれる基盤をつくっていききたい。子どもの学びを支える親世代、祖父母世代には歴史を通して子どもとの対話・交流を促し、郷土愛の輪を広げていきたいというのがターゲットの設定の理由でございます。

そういったことから、(3) コンセプトといたしまして、「「むかし・いま・みらい」をつなぐタイムマシン“こまき号”」というコンセプトを立てております。

まだ「歴史」を習っていない子どもたちにとって、ここでの体験が歴史とのファーストコンタクトになるということで、歴史が勉強という概念のないこの時期に、昔のことを知る楽しさですとか歴史の醍醐味などが伝わるとういなどと思います。歴史(先人)たちの知恵や未来につながるアイデンティティを得て、歴史を自分事化していただきたいと考えております。

こうしたことを踏まえまして、基本方針を3つ設定しております。

まず1番、実物と出会う機会とする。やはり実物の資料を通して、歴史が実際にあったこと、実際に生きていた人たちが今につないできた物語であるということ捉えてもらう。

2番目としまして、「モノ」「コト」に潜むストーリーを伝える。実物の単なる紹介にとどめず、その裏にある情報を伝えていくということで、歴史イコール結果として捉えるのではなくて、様々な事象から成り立っていることを子どもが興味を持

つ手法で伝えていきたい。

3番目といたしまして、周辺施設と連携し、歴史・文化と出会う場を広げていく。先ほど申しあげましたように、館内にはいろいろな施設がございますし、れきしるこまき、歴史館、図書館も近い位置でございますので、こういった施設と連携して、展示施設から歴史・文化に出会う場を広げていきたいと考えます。

次、7ページをお願いいたします。

3番の整備方針といたしまして、施設の改修方針です。

現在は市民ギャラリーということで、展示施設ということになっており、用途変更はなしで、建築関連といたしましては、周囲の壁がぐるっと取り囲んでおりますので、こういったものも活用しながらやっていきたいと考えております。

また、電気・照明等につきましても、まだLED照明になっていない部分もございますので、こういったところを変更したりとか、空調設備等についても個別で空調機器の交換が必要であれば、行っていくということになろうかと思えます。

また、防火設備についても、現状防火対策は取られておりますが、現状維持を基本とすることで考えております。

8ページをお願いいたします。

4番の展示方針でございます。

まず、こちらは展示構成（案）ということで、子どもが歴史に興味を持ち、それを掘り下げていけるような展示ということとし、構成がマクロからミクロにということ、自分事として捉える流れになっているということで、1、2、3、4、5、6ということで定めております。

1番としまして、やはり自分につながる大きな歴史の流れから入って、その流れで、2番としてどのような位置付けだったのか。こちらはグラフィック等でざっと見ることができればいいかなと思っております。

3番としまして、自分事ということで「足元の歴史を知る」、自分たちの身の回りにある歴史を掘り下げていただく展示がよいのではないかと考えております。

4番として、資料をよく見て、想像を膨らませてみるとか、5番として、資料から分かる昔の暮らしというところで、少し掘り下げていける内容としていきたいと思えます。

6番の体験してみるということで、こちらは展示施設の中では、スペースの問題で難しい部分はございますが、附帯施設等も活用しながらやっていけるといいかなと思えます。

9ページをお願いいたします。

9ページ以降、展示方針ということで、それぞれの、今言いましたようなコンセプトに合った展示手法、10ページは具体的な展示方針。5番として、11ページの管理運営方針。12ページで、施設活動といたしまして、どういった他施設と連携ができるのかという連携の展示テーマ例。また、場所が4階ということになりますので、ほかの展示施設へ誘導していくための工夫とか、最後に、14ページになりますが、施設活動ということで、誘導演出をどのようにしていくのかという提案をしておりますので、こちらにつきましてはトータルメディアさんから詳しい説明をしていただきます。

よろしく申し上げます。

【事務局（吉原）】

トータルメディアの吉原です。

補足で少し御説明させていただきます。座って説明させていただきます。

課長から御説明いただきました展示構成、8ページ以降、僭越ながら少し思いを御説明させていただきます。

ページ戻っていただいて恐縮です。8ページ、展示方針というところで、構成(案)ということで、今回先生方にたたいていただいて、御意見いただいて成長していくものと思っております、たたき台という形で作らせていただいております。

基本的には、歴史のおもしろさとか身近に歴史を感じてもらう、自分事化というのをどうしたらできるだろうというところを考えまして、このような大きな構成を作っております。

まだ資料の詳細まではいけておりませんが、大きな流れとして見ていただければと思います。

マクロからミクロへというところで、できるだけ大きな流れを一回見てもらおうと。歴史といいますと、どうしても人が出てくる場所ですが、今回はターゲットを子どもと、案として設定させてもらっていますので、子どもが興味を引くようなところからというところで、ビックバンとかいった本当に地球の最初からの流れで、自分たちの居場所を感じてもらいたいというところに入れております。

その流れの中で、小牧というのは全体の流れの中でどういった位置付けだったのかということも、併せてグラフィック等で見ていただけるかと考えております。

3番の、足元を知るところです。私とかは専門家ではないですが、どうしても破片みたいなイメージが出てきまして。そういったものが自分たちの本当にどこから出たか、子どもたちはやはり自分たちの地域で生きているところがあります

ので、自分たちの地域が一体どういうところだったんだろうというところで、足元に何が眠っているのかというところを細かく見てもらえたら、感じてもらえたらなと思っております。

その後の4番、よく見て、想像をというところです。

どうしても出てくるのが物であったり、昔のことであったりというところで「モノ」を捉えてしまうんですけども、よく資料を見てみると、そこから何か語られていて、そこからの物語というものが必ず出てくると。見方というところをこの施設で補足で伝えていきながら、その資料をよく見て、そこから想像していくということが歴史のとても楽しい部分じゃないかなと自分は感じているので、実物をよく見てもらうというところでこの項目を設定いたしました。

その次に、よく見たら、その資料からどういうことが浮かんできたんだ。よく歴史の教科書で見る縄文の暮らしとかいうのは、やはりこういった破片の中から多くの先人たちがいろんなことを見つけて想像してきたというところがありますので、そういったところのダイナミズムな歴史的なことを子どもたちにも分かってもらいたいなというところで、昔の暮らしというのがどういったところからつながっているかというのがありつつ、どういう生活をしていたのか、自分たちの身近な、衣食住とかいったところも含めての昔の暮らしを少し伝えていきたいなと思っております。

体験は、そんなに大きな施設ではないですし、簡単にできるようなものを案として多少入れておりますけれども、多く作って、できるだけ飽きなく、何度来ても楽しめるような体験をいろいろプランニングしていけたらなと思っております。

9ページ、10ページは構成から手法というところで。

今、展示手法というと、すごくいろんな手法がめじろ押しというところで、子どもたちはデジタルにとっても慣れておりますけれども、そういった中で本当にデジタルで使いやすいものと、アナログで実際に触ったりとかめくってみたりとかいう、伝えたいことで手法というのは変わってくるかなと思っております。

前のページの1、2とそれぞれの項目に合わせて、先生方いろいろなところを見ていらっしゃるの、僭越な感じではありますけれども、アナログな手法だったらこういうことかな、デジタルの手法だったらこういうイメージかなというところで、少し写真と併せて資料を入れさせていただいております。

1、2で年表のグラフィックですが、壁面に一面絵を描いて、子どもたちが見て回る年表もあれば、最近ではデジタル年表が増えてきておまして。年表はどうしてもどんどん新しい年ができてきますので、デジタルで動かせるような年表も近年で

は作ってきております。

足元を探るといふところでも、デジタルの手法と、今れきしるこまきの中にも入っておりますけれども、インタラクティブな映像とセンサーを使ったような展示の仕方もあるのではないかとこのころで、それぞれ資料を入れさせていただいております。

10ページも、同じような形で手法を羅列してあるんですけども、資料をよく見てみると、やはりこれまでの出土遺物とか資料たちをいっぱい見ていただく。ただ、子どもたちといふところでは、なかなか奥深い情報を細かくグラフィックでいふことでは難しいかなといふところ、結構採用されていますデジタル学芸員のような。これといふことではなくて、そのような形で資料をかざすと解説を見られるといふような手法もあるのではないかなといふことで、資料を入れさせていただいております。

それ以降、同じような説明になりますので、お時間あるときに見ていただければと思うのですが、それぞれ、アナログな手法、めくってみるとかデジタルで見るといふ形での案を入れさせていただきました。

次の11ページになります。

こういった展示施設ですが、運営をどうするのかといふのが、デジタルにしてもアナログにするにしても、やはり人といふのがどう関わっていくのかといふところが大事かなと思っております。

現時点では決め込んでいることではなくて、直営、指定管理、業務委託といふような3つが考えられるのではないかとこのころで入れさせていただいております。

基本的には、直営といふことがこのような歴史館とかは多いのかもしれませんが。今回は、ラピオに市の施設がかなり入っておりますので、民俗資料保存施設、考古資料とかいった保存している施設もかなりな連携、そこの連携で成り立つ施設と思っておりますので、市の直営といふところでもかなり効果があるのかなと思っております。

指定管理、小牧山の歴史館もれきしるこまきも指定管理といふところ、同じような形での運営もあり得るかなと考えております。

一部委託といふのは、企画ですとか安全管理とか、常駐しなければいけないところに対しての人の手当てといふのもあるのではないかとこのころで、3つの案を掲げております。

開館時間です。

ラピオの中の各施設でそれぞれ開館時間等が異なっておりますが、基本、図書館がまさに連携のメインかなと思っておりますので、その開館時間、9時半から5時半というところで合わせたらどうだろうかというところでの御提案になっております。

入館料に関しましても、200㎡と、それほど大きいところではございません。公共の施設、市の施設というところで、高校生以下は無料ですよというのが市にございますので、その点では、子どもがターゲットということで無料でもよろしいんではないかというところで書かせていただいております。

12ページにまいります。

展示場所と連携展示、ラピオの中でどのようなところと連携ができるかというのを情報として入れさせていただきました。

1階は食品フロアですとか、3階も連携する場所ではないというところで、2階、4階、5階と連携して、連携先とどういった連携ができるかというのを書かせていただきました。

2階ですが、下のほうに、小さくて写真が見えづらいかもしれませんが、ワクティブ前スペースというところで、市民交流テラス「ワクティブこまき」という市民活動をサポートしている施設があります。その前のところに少し広いスペースがありまして、ふだんは自由に使っていい場所なので、大人たちが集まっている場所です。どうしても民俗資料とかを今回スペースの中に入れづらい中では、こういったところで民俗資料、発掘調査報告とかいった大型の資料とも合わせて、連携展示ができたらいいなと考えております。連携していくと、どうしても歴史に関わってくれる人が多くなります。そういったところも含めて、多くの人に小牧の歴史を知ってもらおうということで、こういった場所で展示ができたらいいなと考えております。

4階はまさに今回の施設が入る場所になります。

図書館というのは、やはり歴史館ととても連携しやすい施設と考えております。可能であれば、月1回ぐらい、絵本を選定して、絵本にちなんだ展示とかいったことができたらいいなと考えております。

5階です。5階も、下のほうに、小さいですけども写真を入れさせてもらいました。5階はスポーツクラブとかいろいろな施設が入っているんですが、センターモールというところで、まさに小牧山がきれいに見えるいい場所を見つけました。ここが本当にきれいにお城まで見通せる場所ですと、まさに城下町と展示ですとか、れきしるこまきですとか小牧山城と連携した展示ができる場所だと考えております。

連携は今後の調整になってくるかもしれませんが、こういった場所で連携ができればいいなというところで提案しております。

13ページからは、この連携展示とも関連してはきますけれども、誘導サインの案を書かせていただきました。

ラピオは複合施設でして、いろんな施設が入った施設なので、施設が多いだけに、この施設に来る目的で来ても分かりづらかったり、一体どこにあるんだというのがあります。あと、目的で来ていない人でも、やはり歴史民俗資料展示室へ来てほしいという、取り込みたいという気持ちもありまして、今回のこの施設はかなり誘導サインが重要になってくるのではないかと考えております。

まずは1階です。このラピオの入り口から何とか4階の施設まで、あるんだというのと誘導をしたいと思っています。下に写真のイメージを入れさせてもらっています。何とかエスカレーターを上るときに視認してもらおう。エレベーターに乗るときに分かってもらおうというところで、少し目を引くといえますか、おもしろいサインが計画できたらいいなと思っています。まずは4階に来てもらおうという誘導サインになります。

14ページになります。こちらは4階に行ってから誘導になります。

エスカレーターがかなり多くて、1か所から歩行が1動線ですというのがなかなか難しい場所ではあります。エレベーターを降りてからも、えほん図書館とかこども未来館という目を引く施設も結構あるのでどうしても、少し暗い場所として、一番下は現在の多目的室前というのが写真を入れさせていただいておりますが、かなりスペース、広い廊下があって、その先のほうに目的の施設がある形になります。なので、エスカレーターを降りたらこの施設に、駆けたらいけないのかもしれませんが、子どもたちが飛んできてくれるような誘導ができたらいいなと思っています。

えほん図書館、こども未来館との連携の演出の一環として、可動式のワークショップワゴンのようなものを置いて、楽しみながら歴史民俗資料展示室へ誘導していく。

もう1つは、ちょっと見づらいかもしれませんが、トリックアート。結構広い廊下もったいないなと思ひまして、トリックアートのような、発掘調査現場を模して、グラフィックが貼れて。発掘現場というのはどうしても掘らなきゃいけない場所なのでこういった施設では体験が難しい、体感が難しいですが、こういったトリックアートなどを使って発掘の現場を体感してもらおうなど、一例ではありますけれども、そういった誘導ができたらいいなと考えております。

今回の構想としてはここまでを御提案させていただいております。

よろしくお願いいたします。

【小野会長】

事務局からの説明は終わりました。

これより質疑に入ります。発言はありますでしょうか。

よろしくお願いいたします。

前回、ラピオの4階というのが出てきまして、それから随分進んで、具体的な案が今回出てきたというところで、入り口の誘導から、中の、デジタルにするかアナログにするか、それをうまく使い分けたところまで出てきていました。

それから、もう1枚ここに紙がありますけれども、こういう展示物など、前、歴史館の展示で使っていた一覧ですよね。こういうものを活用しながらやっていくということになりますよね。

ここまで含めまして、ぜひ先生方に意見を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

【中嶋委員】

まず質問からいきますね。

改修の方針のところ、建築関連とかいろいろ出ていますが、これは防火の体制はどうなっていますか。

例えば、銅鐸を飾るとすると、1,000万以上するようなものですよ。それですと、通常の防火ではちょっと足りないと思うんです。もう一段やってほしい。それは守れるかどうかは別にして、ちゃんとやりましたよというところは見せないと駄目だろうというのが1つはあるのと、防犯です。防犯のことが触れられていないですけれども、その辺の対策もきっちり検討していただいたほうがいいのかなということ。

実は私、ここの市民ギャラリーを整備するとき、担当というか実務をやりましたので、ここが複合施設で、どれだけ難しいところかということはよく分かっています。

文化財で、代替が利かない。燃えてしまったらおしまいというものを展示しなきゃいけないところですので、そういったところはどうなのかなというのがまず1つあります。

【事務局（吉原）】

詳細に関してはまだこれからで、やはりああいう複合施設に展示するというのはかなり難しいなというのは実感しております。

防犯、防火といったところでは、やはり施設の建物全体とか階全体というところには、こうしてくれというところはなかなかできないので、この施設独自で耐火と防犯を考えたケースで対応していくことになるのかなと考えております。

もうちょっと詳細が進んだら、先生方にも御指導いただきながらと思います。

【中嶋委員】

よろしいですか。

【小野会長】

はい、どうぞ。

【中嶋委員】

ちょっと意見を言わせていただきます。

ここの複合施設の性格として、子ども対象になるというのは、確かにそうです。それを意識しなきゃ駄目ですけども、それに限定し過ぎてはやっぱりいかんと思うんです。

旧小牧市の歴史館展示物一覧表というのがある。これ、近隣の市町と比べても、歴史を構成するだけの考古資料だとか材料があるわけですから、発掘品にしる指定文化財にしる、そういうものは市として公開していく義務があると思うんです。発掘したものは見せるんだよという。全部は見せられないですけども、そういうことを考えると、見せる。それは確かに市民、子どもたちもそうですけれども、そうじゃない、外から来る人、例えば小牧山に来た人がついでに来て見るといったときに、例えば国指定史跡の大山廃寺から出土したものがあ程度なきやいかんだろうと。あとは、篠岡の古窯跡群は古窯跡群としてもかなり価値のあるものです。こういったものはなきやいかんだろう。あと、古墳の出土品なんかもそうです。そういうものを入れていくと、そんなに自由にいろんなことができる施設にはならないと思うんです。

そのあたり、まず、これだけ入れなきやいけないんじゃないかというのを決めるのと、ほかにかんできることが大分分かってくるんじゃないかという気はしますね。

それと、地区別の案がありましたけれども、小牧の歴史の中で地区別で違いを出

していくというのはなかなか難しいと思います。市全体でも、その時代時代の特色を出していくというのはなかなか難しいです。ですから、発掘調査なんかはかなり進んで、少し分かったものが時代ごとに点々点々とある。その中で、全国的な調査や何かでいろいろ分かってきたことを含めて、小牧市はこんな独自性のある歴史なんですよ、小牧ってこんなところだったんです、こういう歴史ですっていうところを私は打ち出してほしいと思います。

よそから来た人に対してもそうですし、市民の方たちにもそういうところをぜひ見ていただくような施設になってほしいなと思います。

【小野会長】

ほかの先生方、いかがでしょうか。

【藤堂委員】

ちょっと質問していいですか。

これ、壁を取り払うということですがけれども、今、あそこには3つ部屋がありますよね。あれを1つの部屋にしちゃうということですか。

【事務局（吉原）】

市民ギャラリーは3つに区分されているんですが、中の区分は取ってしまって、中を1つのお部屋で使えたらいいなと思っています。

【藤堂委員】

大きな1つの部屋にしちゃう。

【事務局（吉原）】

はい。

【池田委員】

ちょっといいですか。

壁面って、何で壁面にするんですか。

一応ギャラリーの区画というのがいわゆる、先ほど中嶋さんがおっしゃったように、ここの中にも本当に重要なものがあるので、防犯という意味ではどういう壁面にして、ここだけでも燃えるのをなるべく防ぐような材料になっているのかどうか

ということを一応確認させていただきたいんですけども、どうですか。

【事務局（吉原）】

すみません、まだそこまでは。

【池田委員】

現状のままなのか、取るのか。壁面って今一応あるでしょう。ギャラリーの一番外側の壁面。

【事務局（吉原）】

外側は、現状の段階の考えでは、そのまま残そうと思っていました。

【池田委員】

でも、それはどのぐらいの防火の、耐防火というものがあるのか、防犯的に簡単に崩れないものなのか、そういうことはどの辺まで考え、実際になっているのかということで、それを規範にして、次にここに壁面を作るんだったら、耐火の有無とか簡単に壊せないものとか、そういうもので壁面を作っていく必要があるんじゃないかと思うんですね。

その中の展示とかいうのは、その後きちんとなさればいいことで、まずは、そこに火が入らない、泥棒が入らないということをしないと、展示のスタートができないんじゃないかなと思うんです。それから中の展示になっていくと思うんですが、そこがまだはっきりしないので、もうひとつ。この施設、単なるベニヤで囲ってあったりとか、それでは、とてもじゃないですけども、こういうものを入れるのは無理かなと思うんですけども、いかがでしょうか。

【事務局（吉原）】

施設の中、ああいった場所に置ける区画にはしておりますので。

【池田委員】

例えばガラスでも、今、強化ガラスとか防炎ガラスとか、いろいろガラスがありますよね。そういうガラスで全部囲うというほうがとりあえずはいいんじゃないかと思うんですけどもね。

【事務局（吉原）】

施設を建てたのは随分前かもしれませんが、一応建物、中に入っているものとしては、防火区画とかいったものは、消防法なり建築の中での基準は満たしております。

ただ、今先生おっしゃられたみたいに、よりどれだけの防火の効果があるのかとかいうのは、もう少し調査してみないと分からないところかなと思いますので。

【池田委員】

いえ。調査というか、こちらでは、どのぐらいのレベルの防火、防犯ということを考えていらっしゃるのかなと思ったんですよ。

それに、そののあれが合うか合わないかとなっていくと思うので。ここで安易に壁面そのまま物を置けばいいわというのだと、もしもこういうものがなくなったときに一体どうしたらいいのかということになってしまうので、まずは絶対になくさないという方向で全てを、最初に初期費用が少しかかっても、とにかくそれをまず第一番で、そこから中の展示とか何かになっていくと思うんですよ。

これ、今までの防火が通っているかもしれないですけども、それとは文化財の防犯、防火は違うと思うので、そのところをどのぐらいのレベルまで持っていくのか、先にお答えください。

【事務局（吉原）】

基本的には、重要文化財とか指定文化財、こういった施設なので公開承認が取れるわけではありませぬので、そういった国重要文化財みたいなものは展示ができない場所であると思っています。

【池田委員】

しないということですね。

それはどこで展示しますか。

【事務局（吉原）】

現状、ここでは展示できないので、どこでするというのは、ごめんなさい、他でということに。

【池田委員】

他でって、小牧市内にそういう公開施設にするところを考えていらっしゃるのか、いや、ずっとそれはしまいつ放し。しまいつ放しは本当はいけないんだけど、ちゃんと展示しなきゃいけない義務があるんですけども、その義務はどこで果たされる予定でしょうか。

だって、作るなら、徹底してきちんと作ってもらって。

【小野会長】

確かに、国宝とか重文とかを展示するにはかなりクリアしなきゃいけないハードルがあつて。

なかなか普通の資料館でも出せないとかあるので、ここで求めるのはなかなかハードルが高いような気がして。

【中嶋委員】

複合施設では無理ですよ。

【小野会長】

ここでは無理ですよ。

【池田委員】

それは分かるんですけども。

【中嶋委員】

建てるときから文化庁と協議していかないと。

【小野会長】

国レベルのものが難しいと。だけど、市のもので、ここに挙がっているもので、何とか防火対策、防犯対策してもらってやっていくというところでやらないと、なかなか話が進んでいきづらいですよ。

でも、先生方から出たのは、防火、防犯がとても不安であるということで、その確認をぜひしていただきたいと思います。

尾張旭のあさひタワーのところに民俗資料みたいな、文化財も並べていて。あそこは結構開放的に入っていて。無料で、本当に開放的に入っていて、円空仏なんかも見えて出てきて。

対策取られているのかなと思うけれども、あれ、多分建物が閉まったら誰も入れなくなるからなのかもしれません。あと、カメラがついているんだと思うんです。

だから、どのレベルで、入り口も終わったらちゃんと閉まるのか。開放的である分、どう防犯対策するのかとか。

【事務局（吉原）】

これまでも市民ギャラリーでしたので、やはり人の作品が入っている場所なので、鍵類はきちんと施錠できる形になっています。

ただ、何時間開館かとか、レベルがあるんですけれども、そこをどこに設定していく必要があるかというのは、先生おっしゃるように、資料次第なのかなと思います。そこまでのものを展示していくのかどうかということも含めて御議論いただければ一番ありがたいかなと思います。

【中嶋委員】

ちょっといいですか。

要するに、重要文化財だろうが小牧市の指定文化財だろうが、価値に変わりはないと思うんです。守らなきゃいけないものは守らなきゃいけない。それを守るのが教育委員会なりの姿勢だと思うんです。

だから、そのあたりは頑張らないかと。だから、複合施設で難しいんだと思いますけれども、頑張らないかと思っています。

【藤堂委員】

大口の歴史民俗資料館は、何とか会館の4階か3階にあります。

それから、江南は文化会館の1階にありますよね。あれも複合施設だと思うんですけれども、あの辺はどうなっているんですかね。

土器とか全部展示していますよね。

【池田委員】

でも、お休みになるときは全部扉が閉まっちゃうんじゃないですか。ここは1階に食品売り場があるでしょ、どこかに。あそこは年中無休。

【藤堂委員】

結局、中嶋さんとかがイメージされておると市の提案してくださった計画とはちょっと違うんじゃない。結局、子どもがいっぱい来て楽しく見学して勉強しようという感じですけども、中嶋さんの考えは、大切な文化財をきちんと守ると、大切に、いざというときはきちっとしないと駄目だということで、その辺は意識がちょっと違う感じですけども、ちょっと難しい。

結局市としては、中嶋さんが言われたように、こういうものを何とか展示する場所、市民に展示する場所を確保したいということでいろいろ。

この前、課長が言われたときは、本当にできるのかなと思ったら、真剣に具体化して提案してくださったので、おっ本気だと思ったんですけども、これから実際実現していくためには、今言われたような問題がいろいろとあると思うんです。

だから、ほかの市町村も、周りにいっぱいありますけれども、全部そういう複合施設でやっているような気もするんですけどね。その辺を一回聞いてきちっと調査するという。

それから、外部の方がすごくよく詳しく、具体的にいろんなことを調べて提案していただいて感心しましたけれども、さっき坪井さんに聞いておったんですけども、市の文化財課の体制としては、この事業を本当にこれから具体化していくときに、結実化していくときに、やはり担当職員が要ると思うんですけども。

若い人がこういう、今提案していただいた方と連携しながら、市として、地元に着した、具体化していくことを勉強して身につけていく若い人を育てていかないと、かんと思いますけれども、そういう具体的な人的資源はないですね文化財は、若い人を育てていく、あんたこれやれという、考えよという。

【池田委員】

学芸員がいるかということですか。

【事務局（武市）】

本当に人材というのは大事だと思っております。

職員の世代交代ということで、まだ20代の若い考古学専門員が2人配置されておりますので、そういった職員を担当職員としながら、今後進めていきたいと考えているところであります。

【中嶋委員】

もう1つだけ。

実は、こういう計画を見たときに、これって小牧じゃなくても、どこでもみんな一緒だと思ったんです。もっと小牧市、小牧ってどういうところという突っ込みが全然足りないと思います。まずそこから入らないと。

【藤堂委員】

だから、そのためにも、市の地元の職員がちゃんと知恵を出さないかんと思うんです。外部からのものを参考にしながら。

やっぱり外の人に頼んでも、そこまでは無理だと思うんだけど、こういうすばらしい計画をいただいてね。

【中嶋委員】

私は別にトータルメディアの方に言っているわけじゃないです。市の方に言っているんです。

【藤堂委員】

ああ。そうですね。

【池田委員】

まずは外側を固めちゃわなきゃいけないと思ったから言ったんです。

中に関して、ここ、藤堂先生じゃないけれども、すごくよくやってあると思うんですけれども、実際、子ども向けの展示ということ、どういうふうなものが子ども向けという認識なのかということが伺いたいんですが。担当される方は、どういふのが子ども向けと考えられているのでしょうか。

【事務局（吉原）】

子ども向けってとても難しくて。やはりイラストを使えば子ども向けかということ、そうではないと思っています。このあたりは、実は歴史館は子ども向けのものは今までほぼなくて。あっても、やはり結構難しいなという印象もあります。

今回も、先生おっしゃられていた子ども向けってどういうことなんだろうなというのもまだ、ちょっと考え中でもあるんですけれども、やはりあまり子ども子どもして易しい言葉で伝える、私自身の考え方ではありますけれども、もちろん分かりやすく伝えるというはあるんですけれども、あと、ビジュアルで飽きないようにやっていくという。飽きないような手法であれば、どれだけ難しいことでも割とす

っと子どもたちは受け取ってくれるんじゃないかというような、全然違いますけれども、こども館とかをやっているときの実感ではあります。

なので、そのあたりは実際に作り始めたときに先生方の御指導いただきながらとは思いますが、絵本を作るとか、すごい子どもっぽい映像を作るといふことではないというところだけ、今は考えております。

すみません、お答えになっていないかもしれません。

【池田委員】

すみません。

昔、両替屋ってありましたよね。あそこで小僧さんを仕込むときに、子どもですよ。子どもに教えるのは、何をどうやって教えたと思いますか。

両替屋で本物の小判か偽物の小判かを見分けるのを、子どもの頃から教える。丁稚さんに入ったら、そこから始まります。

どうやってやりますか。

【藤堂委員】

本物を出す。

【池田委員】

本物しか見せないんです。全て本物なんです。偽物は一切出さない。

だから、子ども向けというのは、実は、全て本物を出さなきゃいけないです。だから、子ども向けの展示っていうのは、全て本物を出してください。レプリカは一切やめてください。本物を見ることによって、子どもたちはこれがというのが分かるわけです。それで偽物を出しちゃったら、もう区別がつかなくなっちゃいます。だから、子ども向け展示で一番重要なのはそこなんです。全て本物を出すことなんです。

【藤堂委員】

校長先生。

【池田委員】

だから、校長先生も本物をやってみえるじゃん。

【富嶋委員】

やっと出番が来ましたので、お願いします。

子ども向けということでいけば、コンセプトはとて面白いと思っています。歴史とかの学習になってくると、中には、暗記ばかり嫌だという子たちもいるんですけども、教えるときには、これは実際人間の営みなんだからということ。それが連綿と続けてきて自分に至っているんだよということ。それがまだ未来にも続いていく。社会は未来を考える、そのために歴史を学ぶんだみたいなことで教えていきますし、そこで、連綿とつながっている部分ですごく大事なのは地域の歴史なので、地域学習を適宜取り入れながらイメージを膨らませていく。地域学習にしても社会のほかの学習にしても大事なのは資料なので、資料を出しつなぎ、あるいは資料から膨らませる想像という形で学習をしています。その地域の歴史が中央史とつながると、子どもにはすごく入りやすいです。

何ていうことでやっていくので、そういう学習の手法から照らし合わせて、子どもたちに興味を持たせる、自分事として考えるということをやると、コンセプトとしては大変いいコンセプトだなと思っています。

でも、デジタルばかりでは、なかなかなんです。やっぱり生ものが欲しいです。生ものが欲しい。

僕が一番最初に思ったのは、コンセプトはいいけれども、スペースはあるのかな、キャパは大丈夫かなという問題ですけども、今御意見が出ておるように、コンセプトはいいので、何とか生ものを防犯上きちんとできる形で展示していったら、そこをきっかけに子どもたちが想像を膨らませ、学んでいき、郷土愛を持つという方向に進めていけるととてもいいと思うので、その辺のことをクリアしていただければいいかなとは思っています。

【西川委員】

ちょっといいですか。

【小野会長】

お願いいたします。

【西川委員】

あんまり記録に残るとまずいかなということをちょっと、感想で言います。

まず、市民ギャラリーがあそこにできたんだけど、私はたまたま文化協会の

関係でお手伝いしておったときに声を聞いた中では、市民ギャラリーとはとても言えないというようなところを市民ギャラリーとしておった。というのは、大きさ制限だとかいろんなことがあって、あそこをギャラリーとして使うとしたら、作品は小さなものしか展示できないということです。そういう声がある中に、立派なギャラリーを作ってほしいという声もありました。

だけど、器は、市としては新たに作ることはなかなか難しい。しかも、一部会のそういう声だけではとてもできないということが、まずは議会で通らないだろうという発想がありました。

そういう中で、倉庫をどうしようとか、資料館はどうしようかという声があったときに、あそこを、ちょうど器的に、大きさも旧歴史館とそこそ似たような感じだからそこをあてがえばいいわという発想で作ったら、僕は初めは、一方は文化協会の方々が例えば美術や写真、書やいろいろなものを展示するスペースを度外視してあそこに作るということは、じゃあそういう方たちの気持ちはどうなんだろうかということをやっと疑問に思っていたんだ。

そんなときにふと思ったら、市民会館、公民館を改修するそういう中に、多少ましな、立派な、大きなものでも飾られるギャラリーとして機能するような場所を今度作りましょうという案がある。僕は知らなかったけれども。そういうことならば、他の協会の方たちでも別段での救いはあると思っていいけれども。

私を感じるのは、あそのスペースがほどよい大きさだから、ちょうど倉庫に代わる展示施設としていいわという考えは、何か、ちょうど間に合わせにほどよいものがあつたということをあてがったというイメージが強くて。本当は、作るならば、きっと役所の方々も、例えば図書館が取り壊されてあそこに。地元の人たちは、ここに資料施設みたいなものを作ったらどうかという声はちょこちょこ上がっていると思います。

僕は、そういう形で資料館を作るならば、単独でどういうものをとということのいろんなコンセプトやあるいは施設としてのいろんな対策とか、そういうものを盛り込んだものを作らないとなかなか難しいだろうなということには思っていたんです。そういう点で、あその旧ギャラリーを資料館にするにはどうかなということにはちよつと思ひます。

すみません、雑な感想ばかりで。嫌なことも言っちゃってごめんなさい。

【小野会長】

原点に戻った感じです。

今の小牧市の現状からすると、この場所しか難しいということでここまで進んできたというところで。本当だったら、希望としては、図書館の跡に立派なものを建ててもらって、あっちでしっかり文化財を見せて、こっちは人が集う場所だからデジタルでというのが、本当だったら一番望ましいんでしょうけれども、それがいろんな事情で難しいということであれば、ここをどうにか活用できないかということですが、やっぱり。

【西川委員】

あそこの部屋を使って、かなりのイメージで僕が思うには、欲張った発想でこういう施設を作ろうというような感じを受けていて。

常設展的な場所としては、昔からの展示方法でこういうものということであっても僕はいいと思うんだ。全ての年代にわたってデジタルやどうのこうのとか、パネルでいろいろ変わって体験したりとか、そういうものとなると、あそこの部屋だけではとても無理だと思います。

そういう意味で、防犯、防火も含めて、きちんとやる点では、二面性があると思うんだね。きちんとした形で大事なものを全部では無理だから、ダイジェストで幾つか選んで展示する場所と、それからキャンペーン的に企画展なんかでやるスペースということ。

だから、全く全部を1つの部屋にしちゃうことも含めて、そういう二面性を考えにやいかんかなということを感じます。

すみません。

【小野会長】

ありがとうございました。

先生方の御意見を聞いていると、この資料が眠っていますからどこかに展示したいという気持ちがある一方で、これを並べただけだと、いわゆる一般の人が分かりにくいとか、まして子どもがというところもあって。

今、私もいろんな博物館へ行って、常設展なんかも随分変わってきて、デジタルも採用されてきていて。この前韓国行ったら、本当に子ども向けのデジタルが非常に進んでいて、日本なんかむしろ遅れているんだということが分かったぐらいなんです。

日本でいうと、やっぱり常設展で非常に人気の高いのは、デジタルも入ってきていますけれども、体験型というのが人気が高くて、昔の再現された場所に入ってい

くとか、においをかぐとか触ってみるとかは、常設展でありながらすごく人気が高くて。

やっぱり常設展だとずっと出さなきゃいけないから、実物でも、ちょっと価値の高いものは出せなくてレプリカに替わっているというところも非常に多いは多いですけれども、子どもたちが常に集うということを考えると、体験型とデジタルというのは今の時代の流れではあると思うんですね。

ただ、全て並べるとするのはやっぱり難しくて。だけど、一番大事なところ、先ほどおっしゃられた大山廃寺とか、歴史上欠かせないようなところは、コーナーがあって、すごくきれいに何点か、1点でも見せて、それが毎回変わっていくような、変化していくよな。

だから、ケースがあって、大事なところに本物を見せながら、それが毎月変わっていくとか、季節ごとに変わっていくとかすると、全てに幾らか出番が出てきて。そのスペースも限られていて、そこでデジタルがあって体験もできて。

その体験と合わせて、本当だったら家族で、ファミリーでも来てほしいから、講座というかな、月に1回でもファミリーで来て参加できるような、そういうものをプランされると、またいいのかなと。

限られた場所で、本当にいろんな意見があるんでしょうけれども、商業施設でという、どこかで折り合いをつけないといけないのかなという印象を受けました。

ただ、やっぱり実物はぜひ見せるコーナーを作っていただけるといいかな。

【池田委員】

おっしゃるとおりで。私も、体験というのは今は当たり前のことで、しかも、そこに自分が乗ったらか何かが見えるとかいうデジタルはごく普通の展示になっちゃっている。でも、それをここの中でやっちゃうと。

ここで連携演出（展示）とか書いてあるじゃないですか。場所的にそこでそういうものやってもいいんだったら、そうしながら、ガラス張りの中には本物があって、今体験したものの本物がここにありますよという、そういうような展示にしていけないと、このスペースだとちょっと難しいかなと気はずごくして。

そして、防犯、防火から、本物だけ何とかキープしていければいいから、あとはデジタルのそういう表示なんかはちょっとね、しょうがないかなという感じはするので、2つ区分しながら、とにかく本物を守りながら確実に見せる。それと体験で、しかもデジタル化されたような体験の場所を併せて作るということで。

エレベーターもあるし、エスカレーターもあって、どこからでも入れちゃうんだ

よね。入ろうと思っちゃえば。だから、本当に金庫みたいなものを作らないと。今ある展示用の台とかなんかは多分使えないと思うので。ここは外から、通りながら、何が入っているんだろうという興味を持ちながらというところもできるような、そういう壁面というのも考えたほうがいいのかと思いますね。

ここはすごいお金がかかる。大変だなと思っちゃう。頭痛いと思う、これなんか。すみません。

【小野会長】

ほかの先生、よろしいですか。

【事務局（伊藤）】

たくさんのお意見ありがとうございます。

先生方の御意見を参考にしながら、どうしても民俗資料施設の候補地としては都市計画法上の用途地区はこの商業施設の限られた場所というところになっておりますので、歴史資料というものをどのように見せていくのかというところをもう少し、まだ勉強不足のところもありますので、先生方の御意見を参考にしながらもって考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

ありがとうございます。

【小野会長】

ほかによろしいですか。

4 その他

【小野会長】

そうしましたら、次の議題に入っていきたいと思ひます。よろしいでしょうか。

それでは、市内現地調査の日程について事務局の説明を求めます。お願いいたします。

【事務局（坪井）】

現地調査につきましては、前回の会議で、福巖寺さんとその近くということでお話が出ました。

具体的に日程調整をしていただければとは思ひんですけれども、福巖寺さんにつきまして、御住職さんとまだ連絡が取れていないんですけれども、新たな資料を見

せていただけるのか、現状の資料を見せていただけるのかというところで打診はしてあるところですが、まだお返事をいただけていないという状況であります。

福巖寺さんでは、12月に火渡り神事というものが毎年行われているんですけども、そのような関係で、11月の後半あたりというところで打診はしたんですけども、事務局の方のお話ですけども、日程的には難しいということはお話をいただいています。

ほかの候補地についてはまだ打診している状態ではない状況です。

今日、増田委員が御欠席ですので、日程調整するのでありましたら、何日か候補を挙げていただいて、増田委員にもお伺いをするような形をするのかなとは思っております。

また、年末になってくると、お寺さんとか、どこでもお忙しいことになってくるのかなという気もしています。

【小野会長】

そうしましたら、最後、締めた後でみんなで話し合ったほうがいいですかね。この後に日程調整しまして。

毎年少しずつ小牧のお寺を回って、文化財を拝見していきたいということですので、また日程調整していきたいと思います。

ほかに何か御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

お願いいたします。

【事務局（武市）】

富嶋委員から資料を少しいただいております。御説明いただければと思います。よろしく申し上げます。

【富嶋委員】

今日の議題とは関係ないかもしれませんが、せっかくの機会ですので資料を出しました。小牧山整備の関係で、学校教育で活用ということも話題になっておりましたので、実際に活用してみたということです。

戦国時代に関わって、小学校だと6時間ぐらいの単元があるんですけども、信長をやり、それから秀吉をやって、次の単元、家康につながるんですけども、信長をやったところで小牧山について、信長関係の歴史を挟み、秀吉が終わったところで、次につなぐために小牧・長久手の合戦を挟んだということです。

一色小学校は、岩崎山砦もあつたりして非常に近いところでなじみなところのはずですけれども、なかなか知らないところもあります。こういうのに目を開かせたいということです。

小牧山は信長が4年しかいなかったけれども、後の安土城とかにつながったすごいところなんだよ、天下統一の第一歩なんだよと。小牧・長久手の合戦でここは戦場になったところだし、小牧はただにらみ合いだったというけれども、小牧山が落ちなかったから、家康は後の天下人につながったんだよということで紹介、学習をし、子どもたちはすごいなという気持ちを抱いていただき、すごいところに住んでいるんだなという気持ちを抱いていただいて教材につなげるという授業をやってみました。

手前みそですが、割と子どもたちは食いつきもよく、ああそうだったんだ、すごいなというようなことで、気持ちを新たにしたところがありますので、このような学習をまた学校教育の中で展開していきながら、小牧を愛する子どもたちを育てていきたいと思います。

ただ、中身については、随分と手前みそなところもあるので、また後日、御一読いただき御指導等いただければありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。お時間いただきありがとうございました。

【小野会長】

御報告ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。慎重な審議をいただきましてありがとうございました。

これで進行を事務局にお返しいたします。

【事務局（長谷川）】

小野会長、委員の皆様、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。慎重な審議をいただき、ありがとうございます。

これをもって、令和5年度第2回小牧市文化財保護審議会を閉会いたします。